

2015年5月号

# さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

## ～ シェント PTA について ～

名古屋共立病院 バスキュラーアクセス治療センター

統括部長 桜井 寛

### 【シェントとは？】

血液透析を行うためには、患者さんと透析機器をつなぎ大量の血液をやり取りする道筋が必要であり、そのために設けられた仕掛けをバスキュラーアクセスと言います。一般的には動脈と静脈を外科的に繋ぎ合わせて作製され『シェント』と呼ばれています。

シェントには、流速の早い大量の血液が長期に流れることにより、血管壁に障害が起きたり、また透析時の穿刺・止血の繰り返しにより、シェントが狭くなったりつまったりしてしまいます。

そのような状態のシェントでは透析が出来ませんので、血液透析患者さんにとってシェントは、透析を行うために必要不可欠な命綱と言えるもので、いかにシェントを長持ちさせるかが QOL(生活の質)向上に関わる大切な問題となります。

今回はシェントトラブル(閉塞・狭窄)の時に施行するシェントPTAについて、PTAの方法や意義、また外科的な手術との違いについてお話したいと思います。



### 【シェント PTA とは？】

長期間シェントを使用したことにより、狭くなってしまったシェント部分(狭窄部)を膨らます治療を PTA と言います。

## 【PTA の手順】

①ばい菌が体内に入るといけませんので、シャントの腕全体を消毒して清潔な紙で体を覆います。



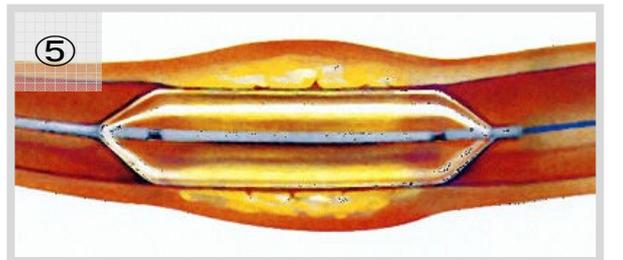
②穿刺する場所に麻酔の注射を行います。

③シースという針を刺して、そこから造影剤を注入して写真を撮り狭窄部を確認します。

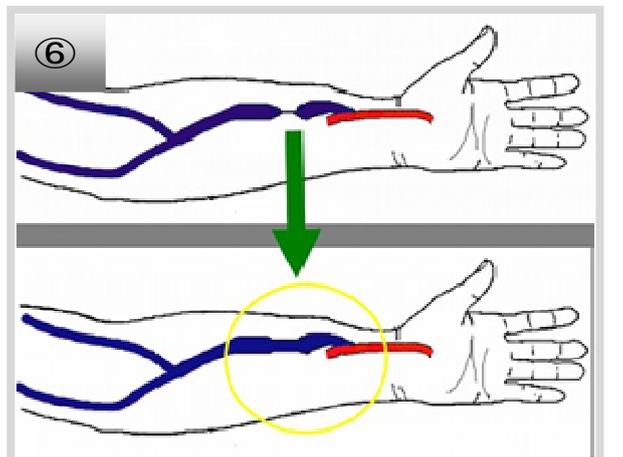


④血管内にバルーンカテーテル（先に風船が付いている）を挿入して、バルーン部分を狭窄部まで進めます。

⑤バルーンを膨らまし内側から血管を広げます。



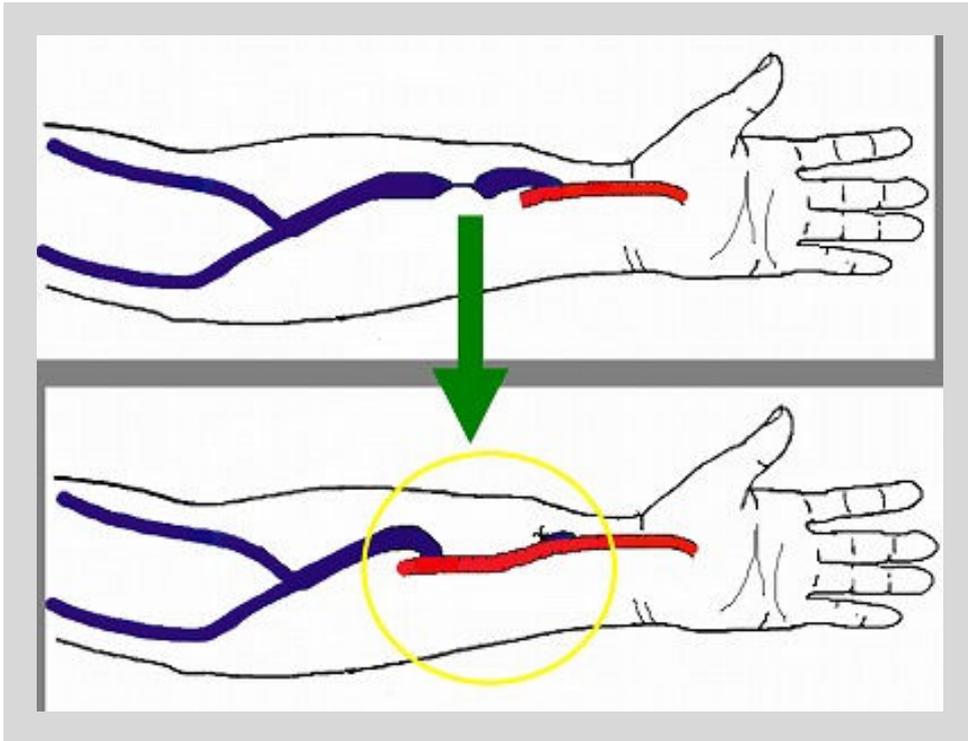
⑥造影剤を注入して写真を撮り、狭窄部が広がった事を確認して、シースを抜き止血して終了です。



## 【なぜシャント PTA なの？】

狭くなってしまった血管を治療する方法には、二つの方法があります。ひとつはシャント PTA ですが、もう一つの方法は手術によって作り直す方法です。

手術にて作り直す方法では、下図のように吻合部（動脈と静脈を繋いだ所）の場所を、狭窄部分を切り取って繋ぎ直して変えることとなります。それによりシャントが短くなってしまい、穿刺できる所が少なくなってしまうます。



よって PTA は新たなシャントを作り直す機会を、将来に温存することができる点に最大の意義があるわけです。

しかし、PTA も絶対的な治療ではありません。広げた所がしばらくすると細くなってしまいます（再狭窄）。その場合は再度 PTA をすればよいのですが、頻回に繰り返す（1～2 ヶ月）ようになれば、そのシャント温存は限界と考え手術により作り直しを考えなければなりません。

## 【おわりに】

シャントに何らかのトラブル（狭窄・閉塞・感染など）が起きた場合には、PTA や手術によって治療を行うことは可能です。しかし、治療をすることによってシャントにダメージを与えていることも事実です。よって普段からご自分でもシャントを大切に扱い、トラブルが起きないように、しっかり日常管理を行ってください。